

HiKOKI

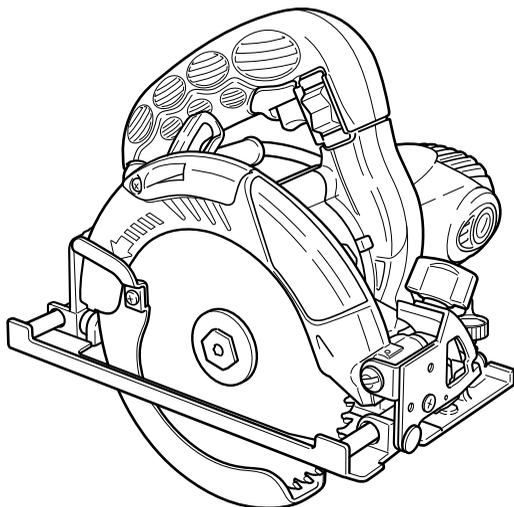
ブレーキ付

リフォーム用丸のこ

145 mm C 5MR

取扱説明書

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



二重絶縁



本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用した場合は、仕様上の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended. No authorized service or warranty is available outside of Japan.

目 次

	ページ
電動工具の安全上のご注意	2
リフォーム用丸のこの使用上のご注意	5
キックバックの原因と対策	8
各部の名称	9
仕様	10
標準付属品	10
別売部品	11
用途	11
作業前の準備	11
ご使用前に	13
作業前の調整	15
切り方	17
のこ刃の取付け・取りはずし	21
保守・点検	23
ご修理のときは	裏表紙

⚠警告、**⚠注意**、**注** の意味について

ご使用上の注意事項は「**⚠警告**」、「**⚠注意**」、「**注**」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

⚠警告 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠注意 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

注 : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。

なお、「**⚠注意**」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

電動工具の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- 使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

警告

- ① 作業場は、いつもきれいに保ってください。**
 - ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- ② 作業場の周囲状況も考慮してください。**
 - 電動工具は、雨の中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。
 - 作業場は十分に明るくしてください。
 - 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
- ③ 感電に注意してください。**
 - 電動工具を使用中、身体を、アース（接地）されているものに接触させないようにしてください。
（例えば、パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などの外枠）
- ④ 子供を近づけないでください。**
 - 作業員以外、電動工具やコードに触れさせないでください。
 - 作業員以外、作業場へ近づけないでください。
- ⑤ 使用しない場合は、きちんと保管してください。**
 - 乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。
- ⑥ 無理して使用しないでください。**
 - 安全に能率よく作業するために、電動工具の能力に合った速さで作業してください。
- ⑦ 作業に合った電動工具を使用してください。**
 - 小形の電動工具やアタッチメントは、大形の電動工具で行なう作業には使用しないでください。
 - 指定された用途以外に使用しないでください。
- ⑧ きちんとした服装で作業してください。**
 - だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがあるので、着用しないでください。
 - 屋外での作業の場合には、ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。
 - 長い髪は、帽子やヘアカバーなどでおおってください。

⚠警告

- ⑨ **保護メガネを使用してください。**
 - 作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
- ⑩ **防音保護具を着用してください。**
 - 騒音の大きい作業では、耳栓、イヤマフなどの防音保護具を着用してください。
- ⑪ **コードを乱暴に扱わないでください。**
 - コードを持って電動工具を運んだり、コードを引っ張ってコンセントから抜かないでください。
 - コードを熱、油、角のとがった所に近づけないでください。
- ⑫ **加工する物をしっかりと固定してください。**
 - 加工する物を固定するために、クランプや万力などを利用してください。手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。
- ⑬ **無理な姿勢で作業をしないでください。**
 - 常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。
- ⑭ **電動工具は、注意深く手入れをしてください。**
 - 安全に能率よく作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、よく切れる状態を保ってください。
 - 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
 - コードを点検し、損傷している場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
 - 延長コードを使用する場合は、事前に点検し、損傷している場合には交換してください。
 - 握り部は、常に乾かしてきれいな状態を保ち、油やグリースが付かないようにしてください。
- ⑮ **次の場合は、電動工具のスイッチを切り、さし込みプラグを電源から抜いてください。**
 - 使用しない、または、修理する場合。
 - 刃物、トイシ、ビットなどの付属品を交換する場合。
 - その他、危険が予想される場合。
- ⑯ **調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。**
 - 電源を入れる前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。
- ⑰ **不意な始動は避けてください。**
 - 電源につないだ状態で、スイッチに指を掛けて運ばないでください。
 - さし込みプラグを電源にさし込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。
- ⑱ **屋外使用に合った延長コードを使用してください。**
 - 屋外で延長コードを使用する場合、キャブタイヤコードまたはキャブタイヤケーブルを使用してください。

警告

⑱ 油断しないで十分注意して作業を行ってください

- 電動工具を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
- 常識を働かせてください。
- 疲れているときは、使用しないでください。

⑳ 損傷した部品がないか点検してください。

- 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定機能を発揮するか確認してください。
- 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
- 損傷した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
- スイッチが故障した場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
- スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は、使用しないでください。

㉑ 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。

- この取扱説明書および当社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント以外のものを使用すると、事故やけがの原因になる恐れがあるので、使用しないでください。

㉒ 電動工具の修理は、専門店で依頼してください。

- この電動工具は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
- 修理は、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。ご自分で修理すると、事故やけがの原因になります。

回 二重絶縁について

二重絶縁とは、電気が流れる部分と手に触れる外枠部品との間が、異なる二つの絶縁物で絶縁されている構造のことです。たとえ一つの絶縁物がこわれても、もう一つの絶縁物で保護されるため感電しにくい構造です。

お求めの製品は二重絶縁構造であり、銘板に回マークで表示してあります。純正品以外の部品と交換したり、間違って組立てたりすると二重絶縁構造でなくなります。電気系統の修理や部品の交換はお買い求めの販売店に依頼してください。

リフォーム用丸のこの使用上のご注意

先に電動工具として共通の注意事項を述べましたが、リフォーム用丸のこのこととして、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

警告

- ① 使用電源は、銘板に表示してある電圧で使用してください。

表示を超える電圧で使用すると、回転が異常に速くなり、けがの原因になります。

- ② 保護カバーは、絶対に固定しないでください。また、円滑に動くことを確認してください。

- のこ刃が露出したままですと、けがの原因になります。
- 回転摺動部およびバネに粘着物、切り粉がたい積し、保護カバーが瞬時に閉まらなくなることがあります。

- ③ のこ刃は、銘板に表示してある範囲内ののこ刃を使用してください。

また、歯底径が 116 mm 以下ののこ刃は使用しないでください。

保護カバーのおおいが不完全となり、けがの原因になります。

- ④ 切断する材料は、安定性のよい台に置いてください。

台が不安定ですと、けがの原因になります。

- ⑤ 切り落とし寸前や切断中に、材料の重みでのこ刃がはさみつけられないように、切断する部分に近い位置を支える台を設けてください。のこ刃がはさみつけられると、けがの原因になります。

- ⑥ 材料の切り落とし側が大きいときは、切り落とし側にも安定性のよい台を設けてください。

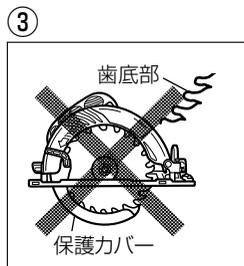
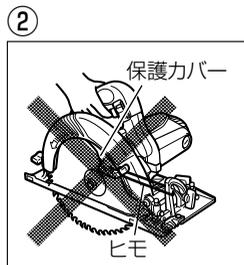
また、切り落とした材料がのこ刃と接触し、飛散するのを防止するために、台の高さは、のこ刃の出しろの 3 倍以上にしてください。

このような台がないと、けがの原因になります。

(12 ページの図を参照してください。)

- ⑦ 使用中は、本体を確実に保持してください。

確実に保持していないと、本体が振れ、けがの原因になります。



⚠警告

- ⑧ 使用中は、のこ刃や回転部、切くすの排出部へ手や顔などを近づけないでください。
けがの原因になります。
- ⑨ 切断途中で、のこ刃を回転させたまま機体に戻さないでください。
必ずスイッチを切り、回転が完全に止まってから機体を持ち上げるようにしてください。
回転させたまま機体に戻したり、持ち上げると、強い反発力が生じ、けがの原因になります。
- ⑩ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常音や異常振動がしたときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。
そのまま使用していると、けがの原因になります。
- ⑪ 誤って落としたり、ぶつけたときは、のこ刃や機体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。
破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。

⚠注意

- ① 刃物類（のこ刃など）や付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。
確実でないと、はずれたりし、けがの原因になります。
- ② のこ刃にヒビ、割れなどの異常がないことを確認してから使用してください。
のこ刃が破損し、けがの原因になります。
- ③ 使用中は、軍手など巻き込まれる恐れがある手袋を着用しないでください。
回転部に巻き込まれ、けがの原因になります。
- ④ 作業前に、周囲の安全を確認してから空転させ、機体の振動やのこ刃の面振れなどの異常がないことを確認してください。
異常があると、けがの原因になります。
- ⑤ ブレーキが働くときの反発力に注意してください。
機体を落としたりし、けがの原因になります。
- ⑥ 切断する材料の下に障害物がないことを確認してください。
強い反発力が生じ、けがの原因になります。
- ⑦ 材料に釘などの異物がないことを確認してください。
刃こぼれだけでなく、反発により思わぬけがの原因になります。

⚠️ 注意

- ⑧ 切断しようとする材料の上に手を置いたり、コードを材料の上に寄せたまま作業しないでください。

手を切ったり、コードを切断し、感電の恐れがあります。

- ⑨ 回転するのこ刃で、コードを切断しないよう注意してください。

感電の恐れがあります。

- ⑩ 機体を万力などで保持した使い方はしないでください。

不意の接触などで、けがの原因になります。

- ⑪ 高所作業のときは、下に人がいないことをよく確かめてください。また、コードを引っ掛けたりしないでください。

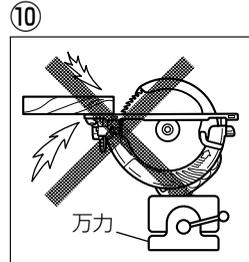
材料や機体などを落としたとき、事故の原因になります。

- ⑫ 回転させたまま、台や床などに放置しないでください。

けがの原因になります。

- ⑬ 機体を作業台や床に置くときは、のこ刃の回転が完全に停止して、保護カバーで、のこ刃がおおわれていることを確認してください。

機体が自走して、けがの原因になります。



キックバックの原因と対策

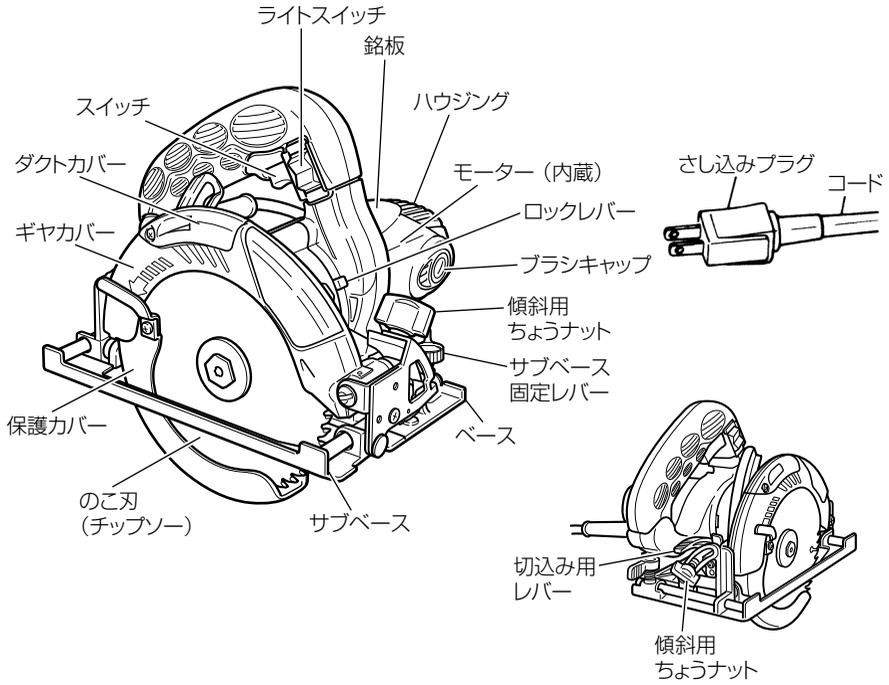
加工材料によるのこ刃のはさみ込みや、変形したのこ刃が材料にかみ込んだとき、反発によって機体がせり上がり、作業者に向かってくることがあります。これをキックバックと言います。

キックバックは丸のこの誤使用が引き起こします。以下はキックバックによるリスクを最小限にするための注意事項です。

警告

- ① 使用時は機体をしっかりと保持し、万一のキックバックに耐えるよう腕をそなえてください。また、切断線と一直線にならないように身体を左右どちらかによけて位置してください。
- ② のこ刃が切り口にはさまったり、かみ込んで、のこ刃の回転が落ちたり、止まった場合、スイッチを切つてのこ刃が完全に停止するまで機体を動かさずに保持してください。のこ刃が動いている間は、のこ刃を切り口からはずしたり、機体を後ろに引いたりしないでください。
 - のこ刃が動いている間に機体を動かすと、キックバックを招きます。
 - のこ刃が完全に停止してから、のこ刃がはさまった原因の確認と対処をしてください。
- ③ のこ刃が材料の中であって、再始動するときは、のこ刃が材料とかみ合っていないことを確認してください。
 - のこ刃がかみ合っていると、再始動したときにキックバックが起こります。
- ④ 面積の広い材料や長い材料を切断するときは、材料の両端と切断部分の近くを固定してください。
両端と切断部分を支持することで、材料が自重でたわむのを防ぎ、キックバックの発生を低減できます。
- ⑤ 損傷や摩耗の激しいのこ刃は使用しないでください。
切れ味が落ちたのこ刃、または正しく取付けられていないのこ刃を使うと、切り口が狭くなり、摩擦でのこ刃がはさまれ、キックバックしやすくなります。
- ⑥ 使用前に切込み用レバーおよび傾斜用ちょうボルト、傾斜用ちょうナットが確実に固定されていることを確認してください。
切断中に切込み深さや角度が変わると、のこ刃がはさまれるまたはキックバックの恐れがあります。
- ⑦ 裏側が見えない箇所などを切断するときは、特に注意してください。
裏側に出たのこ刃が、キックバックを招くものに触れる恐れがあります。

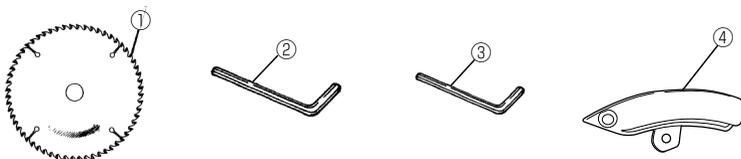
各部の名称



仕 様

項目 \ 形名	C 5MR(SC)
使用電源	単相交流 50/60 Hz 共用 電圧 100 V
最大切込み深さ	47 mm
のこ刃 (チップソー)	外径 145 mm × 穴径 20 mm 刃数 40
使用できるのこ刃	外径 140 mm ~ 145 mm 穴径 20 mm
無負荷回転数	5,100 min ⁻¹ { 回 / 分 }
全負荷電流	9 A
消費電力	860 W
モーター	単相直巻整流子モーター
質量 (コードを除く)	2.3 kg
コード	2 心キャブタイヤケーブル 5 m

標準付属品



項目 \ 形名	C 5MR(SC)
① チップソー (本体装着)	リフォーム用チップソー 1 枚
② 六角棒スパナ (大)	1 個
③ 六角棒スパナ	1 個
④ ダクトカバー (穴なし) ※	1 個

※切りくずをギャカバー上部から出さない時に使用します。

別売部品 …… (別売部品は生産を打ち切ることがありますので、ご了承ください。)

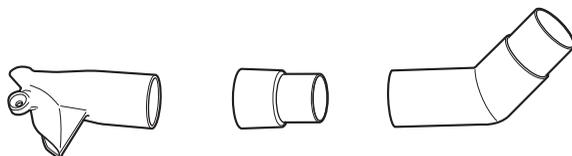
警告

- 別売部品をご使用の際も、保護メガネを使用してください。

1. のこ刃

のこ刃やチップソーにつきましてはカタログを参照してください。または、お買い上げの販売店にお尋ねください。

2. 集じんアダプタセット



用途

- 各種木材の切断

注 ●切断トイシは使用しないでください。

- 木材以外を切断すると、ベース面に傷が付きやすくなります。

作業前の準備

作業前に次の準備をすませてください。

1. 漏電しゃ断器の確認

この製品は二重絶縁構造ですので、法律により漏電しゃ断器の設置は免除されていますが、万一の感電防止のため、漏電しゃ断器が設置されている電源に接続することをおすすめします。

2. 延長コード

警告

- 延長コードは、損傷のないものを使用してください。

電気が流れるのに十分な太さの、できるだけ短いコードをご使用ください。次ページの表は、使用できるコードの太さと、最大の長さです。

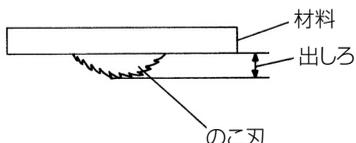
コードの太さ (導体公称断面積)	最大の長さ
1.25 mm ²	15 m
2 mm ²	25 m
3.5 mm ²	45 m

これ以上長いコードを使用すると、電流が十分流れず製品の能率が落ち、故障の原因になります。

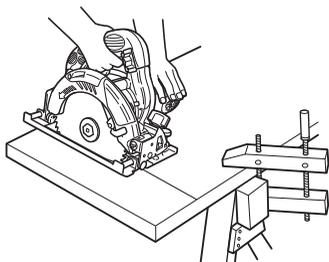
3. 作業台（木製）を用意する

⚠ 警告

- 材料の切り落とし側が大きいときは、切り落とし側にも安定性のよい台を設けてください。
また、切り落とした材料がのこ刃と接触し、飛散するのを防止するために、台の高さは、のこ刃の出しろの3倍以上にしてください。
このような台がないと、けがの原因になります。

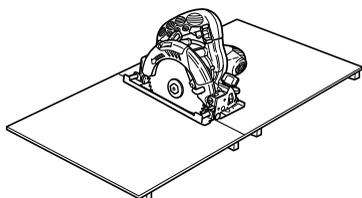


のこ刃は材料の下面より出ますので、材料は作業台の上に乗せて切断してください。また、のこ刃および保護カバーが地面に接触しないように十分な高さ（のこ刃の出しろの3倍以上）にしてください。



切断する材料の切り残り側は、しっかり押さえておくようにしてください。

この場合、材料をバイスで固定するなどしてしっかり押さえれば、両手で作業することができます。



材料の切り落とし側が大きいときは、切断中に材料の重みでのこ刃がはさみつけられないように切り落とし側にも安定性のよい台、または角材を設けてください。

作業台に角材などを利用する場合は、地面の平らなところを選び、角材を固定してください。

○ 騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないよう、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

ご使用前に

警告

- ご使用前に次のことを確認してください。1～6項については、さし込みプラグを電源にさし込む前に確認してください。

1. 使用電源を確かめる

必ず銘板に表示してある電源でご使用ください。表示を超える電圧で使用するとモーターの回転数が異常に速くなり、機体が破壊する恐れがあります。また、直流電源、昇圧器などのトランス類で使用しないでください。製品の損傷を生じるだけでなく、事故の原因になります。

2. スイッチが切れていることを確かめる

スイッチが入っているのを知らずにさし込みプラグを電源コンセントにさし込むと不意に起動し思わぬ事故の原因になります。

スイッチを引き、はなしたときに戻ることを必ず確認してください。

3. のこ刃の締付けを確かめる

工場で組立の際は、すぐご使用できるように、のこ刃を締付けてありますが念のため確かめてください。21、22ページの「のこ刃の取付け・取りはずし」の項をご参照のうえ、ボルトが十分締まっていることを確認してください。

4. 切込み用レバー、ベース前後の傾斜用ちょうナットの締付けを確かめる

警告

- 切込み用レバー、ベース前後の傾斜用ちょうナット(9ページの図参照)が十分締まっていることを確認してください。
ゆるんでいると、けがの原因になります。

5. 保護カバーの動きを確かめる

警告

- 保護カバーは、絶対に固定しないでください。また、円滑に動くことを確認してください。
のこ刃が露出していると、けがの原因になります。

保護カバー(9ページの図参照)は、身体がのこ刃に触れるのを防ぐものです。
必ずのこ刃をおおうように円滑に動くことを確認してください。

万一保護カバーが円滑に動かない場合は、決してそのままお使いにならないでください。この場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

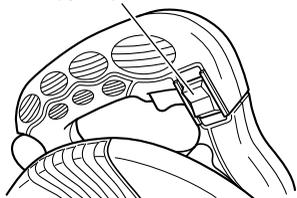
6. ライトの使い方

注 • ライトのレンズ部に付着したごみは、柔らかい布などで拭き取り、ライトのレンズ部に傷が付かないように注意してください。

ライトのレンズ部に傷が付くと、明るさが低下する原因になります。

• ライトのスイッチに、取付けてある防じん用カバーに傷を付けたり、防じん用カバーを破いたりしないように注意してください。

ライトスイッチ



ライトはスイッチの「ON」側を押すと点灯し、「OFF」側を押すと消灯します。

7. 電源コンセントの点検

さし込みプラグをさし込んだとき、ガタガタだったり、すぐ抜けるようでしたら修理が必要です。お近くの電気工事店などにご相談ください。

そのままお使いになると、過熱して事故の原因になります。

8. ブレーキがかかることを確かめる

! 注意

• ブレーキが働くときの反発力に注意してください。

機体を落としたりし、けがの原因になります。

この機体はスイッチを切ると同時にブレーキがかかる構造になっています。ご使用前に、ブレーキがかかることを確認してください。万一正常に作動しない場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

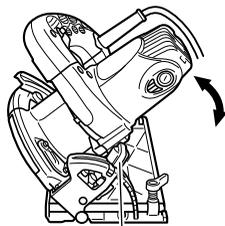
作業前の調整

⚠ 警告

- 万一の事故を防止するため、必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源から抜いておいてください。

1. 傾斜角度の調整

0～45°の場合



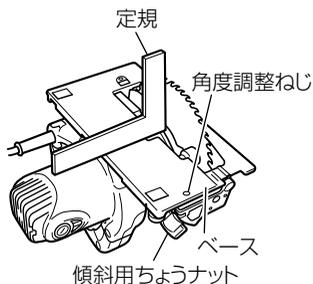
傾斜用
ちょうナット

⚠ 警告

- 調整後、ベース前後の傾斜用ちょうナット、切込み用レバーを十分に締付けてください。
ゆるんでいると、けがの原因になります。

ベース前後の傾斜用ちょうナット(9ページの図参照)をゆるめると、のこ刃をベースに対して、最大45°まで傾けることができます。

2. 傾斜角度の微調整

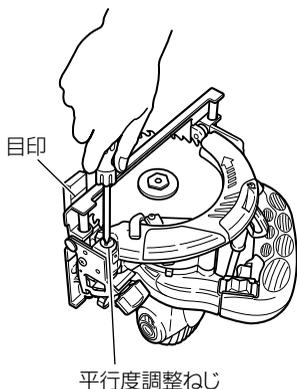
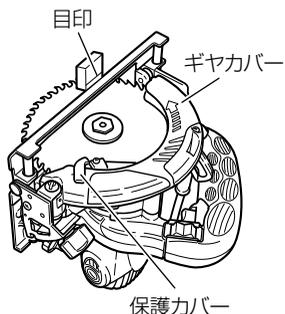
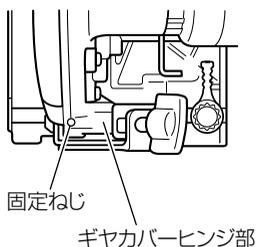


90°の傾斜角度(ベースとのこ刃の角度)を微調整できます。

工場出荷の際に調整してありますが、万一、角度が狂っていた場合は次のように調整してください。

- (1) ベース前後の傾斜用ちょうナット(9ページの図参照)をゆるめます。
- (2) ベース底面とのこ刃に定規を当てて角度を出し、傾斜用ちょうナットを軽く締めます。
- (3) 角度調整ねじの先端がベースの金属製部品に当たるまで、角度調整ねじを回します。
- (4) 調整後、ベース前後の傾斜用ちょうナットをしっかりと締付けます。

3. 平行度の微調整



ベース側面とこの刃の平行度を平行度調整ねじで微調整できます。

工場出荷の際に調整してありますが、万一、平行度が狂っていた場合は次のように調整してください。

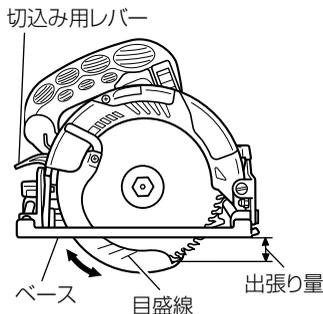
- (1) ギヤカバーヒンジ部の固定ねじを標準付属品の六角棒スパナでゆるめます。
- (2) 保護カバーをギヤカバーの中に引き込みます。
- (3) この刃のベース後方側に木片を当て、ベース側面位置に目印を付けます。
- (4) 目印を付けた木片をベース前方側に移動し、目印がベース側面に合うように平行度調整ねじを回します。
- (5) 調整後、固定ねじをしっかりと締付けます。

注 • 平行度調整後、切込み深さの調整を行うと、平行度が若干狂う場合があります。

4. 切込み深さの調整

⚠ 警告

- 調整後、切込み用レバーを十分に締付けてください。
ゆるんでいると、けがの原因になります。



- 注** ●保護カバーに付いている目盛線は目安です。切込み深さを正確に調整するときは、この刃の出張り量を実測してください。ベースとこの刃を傾斜させているときは、この目盛線は使えません。
- ベースを下限まで動かすと、下限位置で仮止めされる構造になっています。下限位置からベースを動かすときには、多少の力が必要になります。

- 切込み用レバーをゆるめ、ベースを上下させて調整します。調整が終わったら、切込み用レバーをしっかりと締付けてください。
- 保護カバーにはこの刃外径 145 mm 用の目盛が付いています。ベースとこの刃が直角のときは、この目盛を利用して切込み深さが調整できます。目盛線は 3 mm (1分) ごとに付いています。

切り方

⚠警告

- 使用中、機体の調子が悪かったり、異常音がするときなどには直ちにスイッチを切ってください。
- 切断中に機体をこじったり、強く押しすぎないでください。機体をまっすぐに静かに進めるようにしてください。反発力を受け、けがの原因になります。また、モーター部に無理がかかるとともに、この刃の寿命を短くします。
- この刃を上向き、横向きにした使い方はしないでください。けがの原因になります。
- 保護メガネを使用してください。
- 際切り以外の切断作業をする場合は、サブベースを必ず取付けてください。機体が安定しないため、けがの原因になります。
- 作業中断時や作業後は、必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源コンセントから抜いてください。

⚠注意

- 回転するこの刃で、コードを切断しないよう注意してください。

- 注** ●切断を始める前にこの刃の回転が全速回転になってから切断を始めてください。

1. 切り方

- (1) 材料の上に機体（ベース）をのせ、ケガキ線の延長上にご刃を合わせます。
- (2) ご刃が材料に触れない状態でスイッチを入れます。そのままゆっくり前方に進め、切り終わるまでこの状態を保つようにしてください。
ひき肌をきれいにするには一定の速さでまっすぐに進めてください。

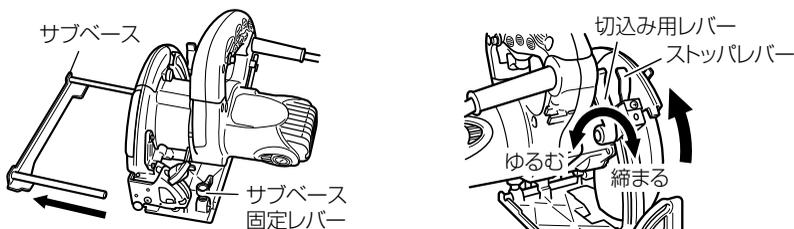
2. 際切り方法

⚠注意

- 切込み始めに強い反発力が生じる場合があるので、機体をしっかり保持して作業してください。
- 機体の進行方向に対し、左側に身体が位置するような姿勢で作業してください。
機体の後ろに身体を位置すると、強い反発力が生じた場合、けがの原因になります。

際切りとはフロアなど壁際ぎりぎり切断する作業のことで、フロアなどの張り替え作業に便利です。

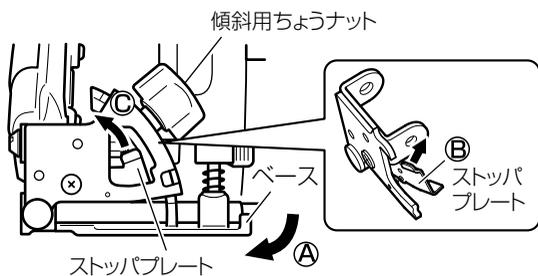
- (1) サブベースを固定しているサブベース固定レバーをゆるめて、サブベースを機体からはずします。
- (2) 切込み用レバーをゆるめ、ご刃の切込み量を最小にします。



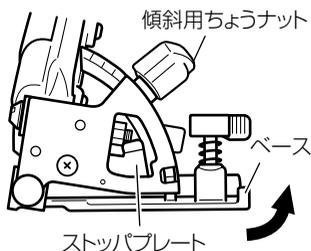
サブベース固定レバーのノブ位置調整

サブベース固定レバーを押し下げると、ボルト頭との合わせがはずれて自由に回転します。サブベースをしっかり固定した後は、サブベース固定レバーを押し下げて、切断作業時のじゃまにならない位置につまみ部を回転させてください。

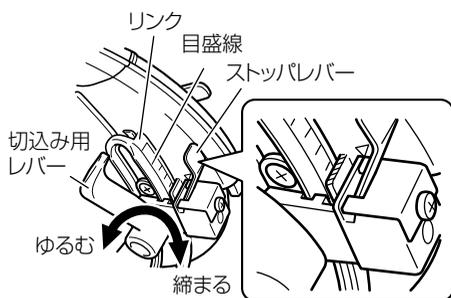




(3) ベース前後の傾斜用ちょうナットをゆるめ、ベースを図の矢印①の方向に少し回転させた後、ストッププレートを図の矢印②の方向に押しながら、図の矢印③の方向に穴がはまり込む位置まで動かします。



(4) ストッププレートがベースに突き当たるまでベースを図の矢印の方向に回転させ、ベース前後の傾斜用ちょうナットをしっかりと締付けます。

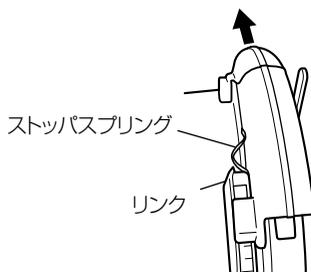
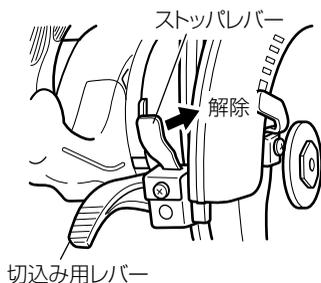


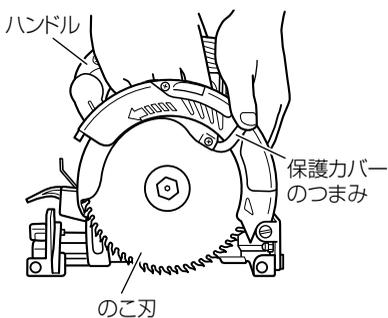
(5) リンクには際切り状態での切込み深さを示す目盛線が3mm(1分)ごとに付いています。

リンクの目盛線と図の斜線部の面を合わせて切込み深さを調整し、切込み用レバーをしっかりと締付けます。

リンクの目盛線は、際切り状態での切込み深さの目安です。切込み深さを正確に調整するときは、のこ刃の出張り量を実測してください。

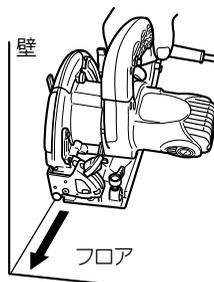
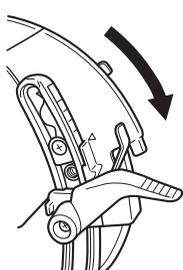
(6) ストップレバーを図の矢印の方向に押して、ベースと機体の固定を解除した後、ストップスプリングがリンクにかかる位置までベースを下げて、切込み量を最小にします。





- (7) 機体のハンドルを持ち、もう一方の手で保護カバーのつまみを引いて図のように保護カバーを上げた状態のままベース底面をフロアにつけ、ベース右側面を壁に当てます。このとき、切込み深さ以上に保護カバーを上げないでください。

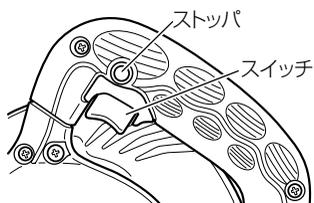
- (8) のこ刃が壁とフロアに接触していないことを確認してスイッチを入れてください。
- (9) のこ刃の回転が完全に上昇して安定したら、壁を切込まないように注意しながら、機体をゆっくりと下げてフロアの隅を切込んでください。
- (10) 前ページの (5) 項での切込み深さまで機体を下げると、ベースと機体が固定されます。その後、保護カバーのつまみをはなして、機体をしっかり保持し、ベース右側側面を壁に沿わせて、ゆっくりと前方へ切り進めてください。



- (11) 切り終わったらスイッチを切にし、のこ刃の回転が完全に止まってから、機体を取り出してください。
- (12) 再度同じ切込み深さで作業する場合は、前ページの (6) 項からの作業を繰り返してください。
調整が容易にできます。

- 注** ● サブベースをはずした逆傾斜の状態では、のこ刃の刃先がベースの右側面より出ているので、切込んでいくときに壁を切込まないように十分注意してください。
- 切込みを入れる場所に釘などの異物がかくれている場合があるので、作業中に異常を感じたらすぐスイッチを切にし、作業を中止してください。

3. スイッチの操作



スイッチは、引くと入り、はなすと切れます。スイッチを引いてストップを押すと指をはなしてもスイッチは入ったままになっており、連続運転に便利です。

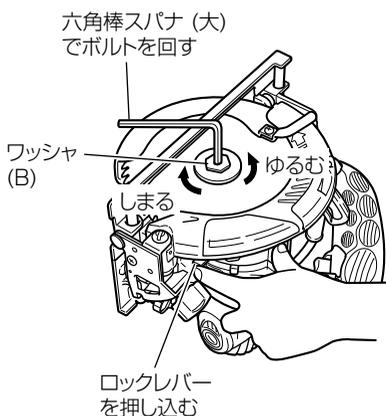
切るときは再びスイッチを引くとストップは、はずれます。

のこ刃の取付け・取りはずし

⚠ 警告

- 万一の事故を防止するため、必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源コンセントから抜いておいてください。

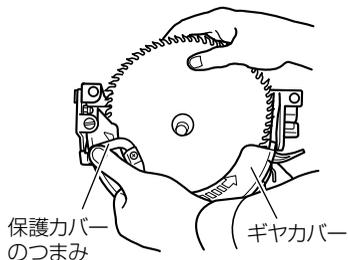
1. 取りはずし方



(1) 切込み深さを最大にし、安定した床の上に丸のこを置きます。

(2) ロックレバーを押し込みながら、付属の六角棒スパナ (大) でボルトを静かに回します。

(3) のこ刃軸が固定されたら六角棒スパナ (大) を反時計方向に回し、ボルトとワッシャ (B) をはずします。



(4) 保護カバーのつまみをもって、保護カバーをギヤカバーの中に引き込み、のこ刃を取出します。

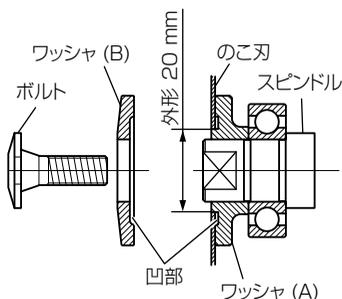
2. 取付け方

⚠警告

- ボルトの着脱は付属の六角棒スパナ（大）で作業してください。
付属以外の工具を使用すると、締過ぎや締付け不足になり、けがの原因になります。

⚠注意

- さし込みプラグを電源コンセントにさし込む前に、ロックレバーが元に戻っており、のこ刃が円滑に回転することを確認してください。



- (1) 取りはずし方と逆の手順で行ってください。
- (2) スピンドルや、ワッシャ (A)、ワッシャ (B) に付いている切りくずをよくふき取ってください。
- (3) ワッシャ (A) は、穴径 20 mm ののこ刃だけが取付けできるようになっています。

取付けるときは、ワッシャ (A) の凹部をのこ刃側にします。

注 • ワッシャ (A) の取付け方向を誤るとのこ刃を取付けることができません。

• ワッシャ (A)、ワッシャ (B) は必ず機体に取り付けてあるものを使用してください。

- (4) のこ刃の矢印がギヤカバーの矢印方向と一致するようにのこ刃を取付けます。
- (5) ボルトを十分に締付けます。

保守・点検

⚠ 警告

- 点検・手入れの際は、必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源コンセントから抜いてください。

1. のこ刃の点検

⚠ 警告

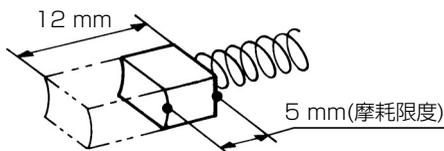
- 切れ味の悪くなったのこ刃はそのまま使用しないでください。
無理して使用すると、切断時の反力が大きくなり、けがの原因になります。

のこ刃の切れ味が悪くなったのをそのままご使用になっておりますとモーターに無理をかけることになり、また効率も落ちますから早めに目立てするか、新品と交換してください。

2. 機体の点検

各部部品の取付けに、ガタつきやゆるみがないか定期的に点検してください。ゆるんだまま使用すると、けがなど事故の原因になります。異常がある場合は、お買い上げの販売店に相談してください。

3. カーボンブラシの点検



モーター部には、消耗品であるカーボンブラシを使用しております。カーボンブラシの摩耗が大きくなりますと、モーターの故障の原因となりますので、長さが摩耗限度(5 mm ぐらい)になりましたら新品と交換してください。

また、カーボンブラシはごみなどを取り除いてきれいにし、ブラシホルダ内で自由にすべるようにしてください。

- 注**
- 新品のカーボンブラシと交換の際は、必ず弊社指定のカーボンブラシを使用してください。指定外のカーボンブラシを使用するとブレーキがかからないことがあります。
 - 新品交換後の運転でカーボンブラシから臭いが出ますが、故障ではありません。
5分間ほど無負荷運転をすることによって、臭いは少なくなります。

交換方法

- (1) マイナスドライバーでブラシキャップ(9ページの図参照)をはずして、カーボンブラシを取出します。カーボンブラシは、必ず2個同時に交換してください。
- (2) 新品のカーボンブラシと交換後、ブラシキャップを取付けます。

4. 保護カバーの動作点検と保守

保護カバー(9ページの図参照)は、いつも円滑に動作するようにしてください。なお、不具合のときは速やかに修理するようにしてください。

5. 表面のよごれ清掃

機体の外枠は強じんな合成樹脂製ですが、ガソリン、シンナー、石油、灯油類を付着させると表面をいためます。

清掃の場合は、乾いた布か石けん水をつけた布などでふいてください。

6. 製品や付属品の保管

使用しない製品や付属品の保管場所として、下記のような場所は避け、安全で乾燥した場所に保管してください。

- お子様の手が届いたり、簡単に持ち出せる場所
- 軒先など雨がかったり、湿気のある場所
- 温度が急変する場所
- 直射日光の当たる場所
- 引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所

このような場所
には保管しない。

メ 毛

メ 毛

ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、お近くの営業拠点へ
お問い合わせください。

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておく、修理
を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	製造番号 (NO.)
販売店 (TEL)				

全国営業拠点

お客様相談センター ※土・日・祝日を除く 9:00～17:00

●フリーダイヤル

 0120-20-8822

※携帯電話からはご利用になれません。
携帯電話からはお近くの営業拠点にお問い合わせください。

※長くお待ちする場合があります。
お急ぎのときは、お近くの営業拠点に直接お問い合わせください。

●営業本部 TEL (03) 5783-0626	●北陸支店 TEL (076) 263-4311
●北海道支店 TEL (011) 896-1740	●関西支店 TEL (0798) 37-2665
●東北支店 TEL (022) 288-8676	●中国支店 TEL (082) 504-8282
●関東支店 TEL (03) 6738-0872	●四国支店 TEL (087) 863-6761
●中部支店 TEL (052) 533-0231	●九州支店 TEL (092) 621-5772

■営業所の移転等により、上記電話番号に連絡がとれない場合は、
下記のアドレスにアクセスすることで、最新の全国営業拠点
をご確認いただけます。

<http://www.koki-holdings.co.jp/powertools/sales.html>

WEBに
アクセス

バーコードリーダー機能付きの
携帯端末より読み取ることで、
最新の全国営業拠点をご確認
いただけます。



工機ホールディングス株式会社

〒108-6020 東京都港区港南2丁目15番1号 (品川インターシティA棟)
営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)

電動工具ホームページ — <http://www.koki-holdings.co.jp/powertools/>